

愛針盤



上海日本人学校浦東校

2016年8月30日(火)

文責

中学部 中本圭祐

鳥取県のみなさん、こんにちは。2014年度より上海日本人学校浦東校に派遣されています、中本圭祐です。1年目は、中学部3年生担任。2年目は、進路指導主任。3年目の今年は、中学部全体をお世話する中学部主任をさせて頂いております。上海で小中学部が併設されているのが本校浦東（プードン）校です。超高層ビルが立ち並ぶここ上海での浦東校の様子を一部ご紹介します。今年度1学期に行われた学校行事です。本校では、日本のように放課後の時間がありません。校車バスと呼ばれる通学バスが発車する時刻に合わせて、下校します。部活動も、1回約1時間が週2回。そのため、異学年が交流し、時間を工夫しながら力を合わせて、生徒が中心となって一つのものをつくりあげる学校行事は、本校教育において重要な役割を占めています。

中学部体育大会

5月30日(月)に第11回中学部体育大会を実施することができました。今年度は、例年になく、雨天のため2日間も延期となっていました。しかし、当日は、日差しも、気温も体育大会にはベストの状況でした。生徒代表の「世界一の体育大会、世界一の学校を目指します！」という挨拶でスタートをきりました。各競技では転んでも、靴が脱げても最後まで全力でやり抜く生徒



の姿がごく自然の姿として見える、熱意にあふれる大会でした。演技、競技、観戦態度、生徒が全力で取り組む姿勢が見られ、それを誇りに思いました。女子のダンスは、全員が全力で、笑顔で全ての曲を踊りきり、1年生、2年生、3年生が学年を超えてしっかりまとまり、チームとしての力を見せてくれました。男子の表現活動は、

まず、最初の団体行動、指揮者の号令のもと、単純な動作が見事にそろった瞬間、会場からは温かい拍手がありました。全員の我慢と緊張の持続のなせる技でした。一つの目的を1年生も2年生も3年生も全員がしっかりと共有

し、集中力をきらさず、心と動作とを合わせた演技でした。

また、本校体育大会の目玉は、何と言っても、縦割り5団による、応援合戦です。赤、黄、緑、橙、紺に分かれ、与えられた時間内で、①声の大きさ、②動きの正確さ、③集団としての調和の取れた動き、の観点をもとに各団工夫を凝らして演技を創り上げます。本番の緊張感、会場がシーンと静まりかえる開始前の瞬間は、何とも言えないものがあります。体育大会が終わった後、涙を流していた生徒たちの姿が忘れられません。



赤団



黄団



緑団



橙団



紺団

English Week イングリッシュウィーク

本校では、小学部の児童向けに5月と6月に **English Week** という行事を行っています。内容としては、小学部4～6年生対象に、外国人講師との昼遊び、そして小学部1～6年生対象に英語絵本の読み聞かせを行います。絵本の読み聞かせには、外国人講師だけでなく、中学部生徒も参加し後輩たちに読み聞かせを行います。今年度も、英会話部の生徒が小学部の教室に赴き、読み聞かせをしました。中学部生徒たちの自信を持って絵本を読む姿は立派で、小学部児童は、あこがれのまなざしで見つめているように感じました。絵本の朗読の後、中学部生徒がそれぞれの思いを語る中で、「どうすれば英語が上手になれますか？」という、児童の質問に対して「私も英語は得意ではなかったけれど、英語が大好きで今は勉強が楽しいです。楽しむのが一番だと思います。」という自分の経験を踏まえた答えは小学部児童の心にしっかりと届いているようでした。新学習指導要領で求められている「学んで何ができるようになるか」まで視野に入れた取り組みに挑戦しています。



本校学校教育目標

「自ら学び 明るくやさしくたくましく 国際性豊かな児童生徒の育成」

上記が本校学校教育目標です。赴任当初から、私の中にあるテーマの一つに、「国際性豊かな児童生徒とは？」という問いがあります。このテーマは、在外教育施設で働く者としては、避けて通れないものであると強く感じています。昨年度、進路指導主任をさせて頂いたこともあり、帰国生を積極的に受け入れる高等学校の先生方とお話をする機会がありました。日本国内で先進的なグローバル人材育成を実践されている先生方のお話は、大変興味深いものでした。また、中学部3年生も帰国生として入試に臨みます。事あるごとに「グローバルな人材とは？」「国際性豊かになってどういうこと？」と問いかけ、共に考えました。

世界の中で自分の能力を発揮して、世界の人々と協力してものごとを成し遂げられる人とは、どのような人なのでしょう。そのようなグローバル人材に必要な要素として、以下のように定義されているようです。

要素1：語学力・コミュニケーション能力

要素2：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素3：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

※2012年6月発表 グローバル人材育成推進会議（内閣府・文科省の各省庁）より

今年5月にも文科省より「在外教育施設グローバル人材育成強化戦略」が出されました。在外の日本人学校に勤務する者として、引き続き研究を重ねていきたいと考えています。

余談ですが、みなさんはメールマガジン「じゃれマガ」をご存知でしょうか。やさしい英文メールです。私は、英語科の教員なので、中学部3年生のための教材としても使わせてもらっています。私もグローバル化について投稿したところ採用されました。ここに掲載させていただきます。

What Globalization Means

I am an English teacher from Tottori, but I have lived in Shanghai for over two years. The Ministry of Education, Science and Culture (Mombukagaku-sho) sent me to the Japanese School here. Since I came, I have been thinking about what globalization really means. The other day, a student's grandfather came to Shanghai for the first time. He said, "China is not so bad." Many people in Japan don't have a good image of China because of the mass media. Now I think that the first step towards true globalization is to see and hear things yourself, not through the mass media.

